

0歳児クラス担任保育者の園内研修を通しての変容

—主体性の捉え方に着目して—

中島寿子*

Perspective Shifts Regarding Infant Childcare through In-service Training
: Focusing on Perceptions of Children's Subjectivity

NAKASHIMA Hisako*

(Received September 27, 2024)

本研究は、0歳児クラス担任保育者が、園内研修を通して子どもの主体性の捉え方や自分の保育がどのように変わったと捉えたのか、それはどのような園内研修の内容によるのかを明らかにした。この保育者はエピソード記録を書くために0歳児の主体的な姿をどのように捉えるとよいか悩み、他の担任保育者が子どもと関わる姿を取り上げることもあった。しかし、園内研修で他の保育者のエピソード記録をもとに話し合うこと、0歳児クラスの他の担任保育者の保育をもとに自分の保育について振り返ること、子どもが自分から何かを始める姿に着目してエピソード記録を書いて子どもの主体性や自分の保育について再考することで、子どもの主体性の捉え方が変わったと捉えていた。そのことで、子どもの主体性を支える保育について他の担任保育者にアドバイスができるようになったとも捉えていた。

I 問題と目的

現在、保育者には子どもの育ちや保育の過程を言語化し、保育内容等の評価や研修等の取り組みについて常に「子どもにとってどうか」という視点から検討すること、その土台となる日々の保育の振り返りや対話、記録の充実を図る力を身につけることが求められている（保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会, 2020）。また、幼児教育の場の課題の一つに他の学校種よりも保育者の平均年齢が若く、「経験に基づく知見が蓄積されにくい状況」にあることが挙げられており、「研修の充実等による資質の向上」の重要性が指摘されている（幼児教育の実践の質向上に関する検討会, 2020）。

このような状況をふまえ、筆者は保育者が子どもの姿に基づく保育の過程を言語化し、他の保育者とも共有するための園内研修を計画し、研究協力園の保育者たちと2年間取り組んだ。この園内研修では、研究協力園であ

る保育所が大切にしてきた「子どもの主体的な遊び」を支える環境構成と援助について考えることをテーマとし、保育者のエピソード記録をもとに話し合いを重ねた。その際には、子どもの姿に基づく保育の過程を考えるための視点 SOAP（河邊, 2019ab）や、教師教育プログラムとして開発された省察サイクル「ALACTモデル」（Korthagen et al., 2001）において「行為の振り返り」の際に用いる「具体化を促す問い」^{注1)}を活用した支援もした（表1参照）。

この園内研修に取り組んだ保育者は、エピソード記録を書き、エピソード記録をもとに自分が捉えた子どもの姿や自分の保育について語る中で、他者に伝わりやすく言語化することを意識するようになり、「子どもにとってどうか」という視点から考え合うようにもなっていた。また、子どもの姿に基づく保育についてのそれぞれの考えを理解し合い、共有するようにもなっていた^{注2)}。

* 山口大学教育学部, 〒753-8513 山口市吉田1677-1, hisako-n@yamaguchi-u.ac.jp

表1 「具体化を促す問い（8つの問い）」とSOAPの視点

1. 私は何をしました？	doing	5. ○ちゃんは何をしました？	← S (幼児の姿)	↓ ↓ ↓
2. 私は何を考えていた？	thinking	6. ○ちゃんは何を考えていた？	← O (読みとり)	
3. 私はどう感じていた？	feeling	7. ○ちゃんはどう感じていた？		
4. 私はどうしたかった？ (何を望んでいた？)	wanting	8. ○ちゃんはどうしたかった？ (何を望んでいた？)	A (どのような経験をしてほしいか) P (そのために どのような 環境構成・援助をしていきたいか)	

この園内研修で子どもの主体性についての捉え方や自分の保育が変わったと語る事が最も多かったのは、0歳児クラスの主任保育者であった。乳児期に子どもの主体性を尊重した保育をすることは、子どもが身近な環境に興味をもち、自ら行動しようとする意欲や人と関わる力を育てていく上で大変重要である(保育所保育指針解説, 2018)。そこで、本研究は、この0歳児クラス主任保育者が園内研修のどのような内容から、どのように子どもの主体性の捉え方や保育が変わったと捉えるようになったのかを明らかにすることを目的とする。

II 研究の方法

II-1 研究協力者

筆者が園内研修に参加してきた保育所に研究協力を依頼した。本研究の趣旨と内容について園長に説明して内諾を得た上で、0歳児クラスから5歳児クラスまでの主任保育者6名に、本研究の目的、方法、個人情報の保護等について口頭と文書で説明をして協力を依頼した。その結果、全員から文書で同意を得ることができた。

2年目の園内研修に取り組む前にも同様の手続きで主任保育者に研究協力を依頼し、同意を得た。2年目には主任保育者に1名が加わり、7名が参加した。

本研究で取り上げる保育者は、この園内研修に取り組んだ当時、0歳児クラスの主任保育者であった。以下、A先生と表記する。A先生は園内研修開始時に保育経験30年目であった。

II-2 園内研修の方法

園内研修のテーマは「子どもの『主体的な遊び』とそのための環境構成・援助について考える」とし、1年目、2年目とも年間6回実施した(1回の所要時間は1時間半～2時間程度)。主任保育者と筆者の他に、園長、主任も参加した。

エピソード記録を取り上げた園内研修は、表2にまとめた流れで取り組んだ。毎回筆者はSOAPの視点と「具体化を促す問い」の関係を整理した資料を配付し(表1参照)、園内研修の中でもSOAPの視点と「具体化を促

す問い」を活用した支援をするようにした。

1年目は、第1回から第5回まで主任保育者全員のエピソード記録を取り上げて話し合いをした。年度末には、園内研修で取り上げたエピソード記録をもとに話し合うクラス会議が計画されたため、第6回にはクラス会議でどのような話し合いをしたいかを考え合った。また、園内研修の中での自分の変化についても報告し合った。

2年目は、日々の保育記録の課題と改善点についても話し合い、話し合いをふまえて実践したことも報告し合った。エピソード記録をもとに話し合う際には、3～4名のエピソードにして、一つのエピソード記録について話し合うことにより多くの時間をかけるようにした。

2年目にもエピソード記録をもとに話し合うクラス会議が計画されたが、前年度よりも早くに実施し、エピソード記録は園内研修に参加していない担任保育者が担当するようにした。第5回、第6回はこのクラス会議の内容についての報告をもとに話し合いをした。

表2 エピソード記録を取り上げた園内研修の方法

園内研修前	<ul style="list-style-type: none"> 保育者は日々の保育をもとに取り上げたいエピソード記録を以下のようにまとめる。 「エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと」「エピソード名」「エピソード」「考察」
園内研修	<ul style="list-style-type: none"> 保育者の「エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと」もふまえて、エピソード記録をもとにした話し合いをする。 筆者はSOAPの視点や「具体化を促す問い」を活用し、子どもの姿に基づく保育プロセスを言語化するための支援もする。 園内研修の内容はICレコーダーで記録する。
園内研修後	<ul style="list-style-type: none"> 保育者は「気づき」「気づきをその後の保育にどのようにいかしていきたいか」をポートフォリオ用紙に記録する。 筆者は逐語録をもとに園内研修記録を作成し、保育者に渡す。 園内研修記録とポートフォリオ記録の内容もふまえて、園長・主任・筆者で相談しながら次の園内研修の計画をする。次の園内研修で保育者に渡せるように、全員のポートフォリオ記録の内容もまとめる。

表3 ポートフォリオ記録用紙の様式

○月○日 (○) 第1回園内研修			
○月○日 (○)			

第6回では、2年間の園内研修の中での自分の変化についても報告し合った。

2年間を通して、毎回の園内研修後には、ポートフォリオ用紙への記録をしてもらうようにした(表3参照)。

II-3 園内研修についてのインタビュー

2年間の園内研修を終了した翌年度の6月に、園内研修に参加した主担任保育者に個別にインタビューを実施した。事前に口頭と文章で、インタビューの目的と方法、個人情報の保護について説明し、以下の内容が主な質問項目であること、園内研修と同様に文字化をするために録音したいことを説明した上で、研究協力を依頼した。

1. これまでの園内研修を振り返り、進め方についてよかったと考える点、このように進めてもよかったのではないかと考える点
2. 今年度の担任クラスの子どもたちや保育について

インタビュー開始時にも、インタビューの目的と内容、方法、個人情報の保護、インタビュー内容の録音について説明し、研究協力の承諾を得た上で実施した。

このインタビューは、質問をもとに自由に語ってもらう半構造化インタビューとした。保育者の語る内容についてさらに質問して語ってもらうこともあった。

質問項目2については、「子どもの主体性を感じた場面」についても語ってもらった。予め準備したことを語られることを避けたかったため、質問項目2について語ってもらう中で、さらに質問をするようにした。

II-4 分析の方法

2年間の園内研修で取り上げたA先生のエピソード記録、園内研修の記録、ポートフォリオ記録、2年間の園内研修終了後に実施したインタビューの記録をもとに、0歳児クラス主担任保育者A先生が、この園内研修のどのような内容をもとに子どもの主体性の捉え方や保育が変わったと捉えるようになったのかを明らかにする。

なお、本研究については、本学の学内委員会で倫理審査を受けて承認を得ている。

III-1 園内研修の実際(1年目)

【第1回園内研修(5月)】

第1回では、筆者が説明した様式で初めてエピソード記録を書いて持ち寄ったため、一人一人にまず自分のエピソード記録を読んで紹介してもらった。A先生のエピソード記録は、入園直後の0歳児が自分から他の子ども

に関わる場面を取り上げていた(表4)。そして、子どもの姿、子どもが自分からしようとしたことを思わず止めようとしたが、その思いに気づけたことをもとに、「子どものやりたい思い」に気づくことや「自ら友達に関わろうとする姿」を大事にしたいと記述していた(表4下線部)。

表4 第1回園内研修でのA先生のエピソード記録

【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】

入園して子ども自らが友達に関わる姿を初めて見た場面だったため、保育メモ^{注)}にエピソードを残していた。保育者は日々の保育で、子どものやりたい思いに気づいてあげているだろうか…。

大人の姿を見て真似をしようとする子がいたが、保育者は子どもに対して見本となるような関わりはできているだろうか。

【エピソード】4月19日「友達に関わろうとするa君の姿」

テラスでb子(6ヶ月)の足指マッサージをしていると、「アー、アー」と機嫌良く声を出し、とても気持ち良さそうにしていた。少ししたら、もう片方の足を私の方に出してきて、まるで「こっちもやってー」と言っているかのようなようだった。

そんな私とb子のやりとりを見ていたのか、a男(11ヶ月)が私のそばへやってきた。まだ足腰が不安定なa男が勢いよく来たため、b子のお腹の上に乗ってしまうのではないかと思わずa男の動きを止めようとしたが、a男はb子の足を持ち、遊び始めた。私がしていたマッサージを真似しようとしていたのかもしれない。

b子も嫌がることもなく声を出して機嫌が良い。「aちゃん、bちゃん気持ちいいーって。よかったね」と声をかけると、a男もニコニコと嬉しそうにして、b子の足をもち、握ったりゆらしたりしていた。

こんな子ども同士の関わりが見られたのは入園して初めての姿で、幼い子どもが友達のことを意識する姿に驚くと同時に微笑ましく思えた場面だった。

【考察】 子どもがしようとしていることに危険を感じ、すぐに止めてしまいうようになった自分だったが、a男の思いに気づいてあげることができてよかった。幼い子が大人の姿を見て真似をする姿や、自ら友達に関わろうとする姿を大事にしていきたいと思う。

注)この園の日記には、週の計画、日の記録、週の評価・反省欄の他に、担任保育者が自由に記録できる「保育メモ」の欄がある。

全員にエピソード記録を読んで紹介をもらった後、この日は特に主担任保育者の悩みが深いと感じられた他のクラスのエピソード記録をもとに話し合いをした。

園内研修後、A先生はポートフォリオ記録に「子どもの行動を見てなぜそうしたのか。いくつもの子ども達の思いを予測(推測)してみたら面白いかなと思った」「今後の保育にいかせるかはわからないが」と記述していた。

【第2回園内研修(7月)】

第2回で、A先生は「エピソードを取り上げた理由」を

読む際に、どのエピソードにするか悩み、他の保育者とも相談してこのエピソードにしたと語っていた (表5)。

表5 第2回園内研修でのA先生のエピソード記録

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 0歳児は今の時期、子どもからの発信がいつもあるわけではないため(中略)子ども達の行動やしぐさに気づいたり、思いを受け止めることを大事にしている。今回のエピソードは、言葉がなくても子どもの思いをくみとりながら遊びを共有する保育者と、子どもが笑い声をあげて遊ぶ姿が印象的だったため、取り上げた。</p>	
<p>【エピソード】6月8日「楽しいね!まてまて遊び」 I先生とc君がテラスでまてまて遊びを楽しんでいた。c君の動きに合わせてI先生も四つ這いになり、「まてまて〜」とテラスの広いスペースを使ってとても楽しそうだった。I先生はc君との個々の関わりを意識しているのか、何度も繰り返し追いかけていた。c君は何度も後ろを振り返り、I先生の動きを気にして追いかけてもらうのを待っているのが伝わってきた。「きゃあ〜」と嬉しそうに笑い笑顔。自分だったらそろそろ飽きてしまいそうな遊びだが、I先生はc君の反応を見てしっかり付き合っていた。 3時のおやつ後は、友達の高いハイハイに喜んでついて行く姿があった。少しずつ友達にも目が向くようになっていっていると思う。友達に追いかけていられるつもりなのか、後ろにいる友達を誘うような仕草をして近づいていき、何度も急いでハイハイで逃げまわるようにしていた。</p>	<p>c君がハイハイ、I先生が四つ這いになって笑顔で顔を見合っている場面のイラスト</p>
<p>【考察】 c君はI先生に追いかけてもらうことを期待し、しっかりと応えてもらうことで満足できたと思う。目が合わないなど気になる姿がこのような遊びを通じて改善に繋がっていく気がした。I先生はどんな思いをもって関わっていたのか聞いてみたいと思った。 保育者との遊びが友達との関わりへのきっかけになるよう、子ども達の好きな遊びに気づいて一緒に楽しんでいくことを今後も続けていけたらと思う。</p>	

A先生はc男の思いに応じて遊ぶI先生の姿(表5下線部)と「まてまて遊び」を楽しむc男の姿(表5下線部)の姿を取り上げていた。「自分だったらそろそろ飽きてしまいそうな遊び」(表5下線部)をI先生がc男と繰り返し楽しみ、その後もc男がこの遊びを楽しんでいた姿から、c男の気になる姿が「このような遊び」を通じて改善に繋がるのではないかと考察していた(表5考察下線部)。

考察に「どんな思いで関わっていたのか聞いてみたい」とあったので(表5考察下線部)、筆者がA先生に尋ねてみると、I先生はc君との個々の関わりを意識していたと言われたとのことだった。c君は目が合いにくく呼びかけても反応がないことが多いが、このまてまて遊びだけはすぐ反応をするというA先生の話をもとに、それはなぜかを日頃のc君の姿を振り返りながら考え合った。

筆者はA先生に「c男にとってのまてまて遊びの楽し

さをどのように感じているか」と質問してみると、A先生は「なかなか私たちも把握できていない」と語ったため、A先生たちが感覚的に大事だと捉えている「このような遊び」の中身をもっとしっかり考えることを意識するとよいのではないかと伝えた。

A先生は園内研修後のポートフォリオ記録に、自分が見た様子を取り上げたため、その保育者の思いについて答えられなかったと記述していた。その場面での保育者や子どもの思いを予想(推測)し、書き留めておくようにしたいとも記述していた。

【第3回園内研修(9月)】

第3回も、A先生は第2回で取り上げた担任保育者I先生と子どものやりとりを取り上げていた(表6)。I先生が自分に報告してくれた内容がうれしかったため、I先生に書いてもらった内容をもとにまとめたとのことだった(表6下線部)。

表6 第3回園内研修でのA先生のエピソード記録

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】 「先生、聞いてください。d君可愛かったんです」とI先生が嬉しそうに報告してくれたエピソードを聞き、自分もとても嬉しかったため、この内容を取り上げた。言葉はないが、d男が思いを伝える姿にしっかりと保育者が向き合い、付き合う姿に嬉しく思った。</p>
<p>【エピソード】8月中旬「おてて、きれいになったよ」 (前略)ポットン遊びをしていたd男。(中略)ポットンの中へ入れる玩具が離れた所にあつたため、I先生が取って手渡すと、d男が突然立ち上がり、I先生の手を引いてどこかへ向かうとする。 《ん?どこへ行くんだろう?》 手洗い場まで行くと、d男がI先生の手の方を見ている。《私の手、何か気になってる?》I先生が自分の左の手のひらを見ると、黒いペンで書いたメモがある。《もしかして、手のひらのメモ、汚れていると思ってる?洗ってほしいの?》 「先生のおてて、何かついてたねえ。教えてくれたの?ありがと。ぱちぱちだったから洗おうね」そう言いながら水道の水を出し、手を洗って見せた。一生懸命にI先生の様子を見ているd男。《油性ペンだから消えないよ(汗)》「ほーら、きれいになったよ」メモの書いていない右手の手のひらを見せると、d男は満足そうな笑みを浮かべ、安心したのか、また遊びに戻っていった。</p>
<p>【考察】 手が汚れていることに気づき、保育者を手洗い場まで連れて行くd男の姿に驚いた。子どもってよく見てるんだなと思う。d男の思いを予測して動き、思いをくみ取るI先生はさすがだと思う。洗った手のひらとは別の手を見せ、納得してくれたが、メモが残っていた手のひらを見せていたらどんな反応をしたのだろうか。</p>

A先生はこのエピソードをもとに、d男にもう一方の手をさっと見せたI先生の行為(表6下線部)にこの人のやさしさが表れていると思ったと語っていた。また、第2回と同様に、自分だったら多分このようにはせずに「消えなかったね」と言いそうだと語っていた。

筆者がエピソード中の「ん?」等の表記について質問すると、A先生はI先生が「自分の心の中」も書いてく

れたと語っていた。

この日は、1歳児クラス主任保育者も、早朝保育担当の保育者から聞いた話をもとに、登園時にいつも泣く子どもが、他の子どもが呼びに行くと自分の足で保育室に入って来た場面を取り上げていた。筆者はこれらのエピソード記録から、この時期の子どもたちが自分から何かを始めようとする姿をしっかりと見るのが大事だと改めて学んだと伝えた。

筆者はこの回の始めに、「みんなで検討したいこと」を明記すると話し合いやすく、自分の気づきも得やすいこと、本人しかわからないこともあるので、自分の保育を取り上げる方がよいと思うとも伝えていた。

A先生はこの筆者の話もふまえ、自分は低月齢児担当のため、子どもからの発信がなかなか少なく、どのようなエピソードを取り上げるか悩んだ、次回は自分の経験をもとにしたエピソードを取り上げたいと語っていた。また、ポートフォリオ記録には、「子どもの姿を喜び、自分の思いを私に伝えに来てくれるこんな職員関係を大事にしていきたい」と記述していた。

【第4回園内研修（11月）】

第4回のA先生のエピソード記録では、日頃から他の担任保育者（保育経験1年目）の後追いをする子どもが午睡時にも寝かせてもらいたくて泣いていた場面を取り上げていた。その保育者が他の子どもを寝かせていたため、A先生が抱っこして外に連れ出し、園庭の自然に触れて散歩するうちに気持ちが切り替わり、眠ることができたというエピソードであった。

このエピソード記録には、第2回で取り上げたI先生のように、その場面でのA先生の思いが記述され、考察には、子どもの思いをくみとり、寝かせるのを代わるべきだったかもしれないと後から思ったと記述されていた。

A先生が園内研修前にこのエピソードを取り上げることを伝えると、この保育者は「はっきり覚えてます」と言って、自分だけを後追いするのがよいのか悩んでいたため、あの場ではあえて距離をあけたと言っていたとのことだった。A先生は、この時期の子どもにこだわりがあるのは当たり前で、そのこだわりを受け止めることが大事だと思っているが、「先生はそう思ったんだ」と思った、自分が何でも言ってしまうとその人の思いを保育に出せないのではないかと気になっていると語った。

この話を聞いた他の保育者からは、若くてもどの保育者も自分なりの考えがあるはずという発言があった。

A先生はこの園内研修後のポートフォリオ記録に「子どもの心の声を紙面に出すことで、あの時の様子を自分の思いを含めて思い出すことができる。日々の日誌の保育メモにも記録として書き方を少し意識しておく、後から見直す時に助かると思った」と記述していた。

【第5回園内研修（1月）】

第5回になると、どのエピソード記録も子どもについての読み取りや保育者としての願いがわかりやすく書かれ、「検討したいこと」が明記された記録が多かった。

A先生のエピソード記録（表7）の「検討したいこと」にも運動機能も高まってきた子どもたちが体を動かすことを楽しめる環境について考えたいと記述されていた（表7下線部）。また、子どもの動きを思わず大声で止める他の担任保育者の姿を見て、日頃の自分の保育についても振り返り（表7下線部）、子どもが「何を求めているのか」に気づき、その時に必要な環境を作ること

表7 第5回園内研修でのA先生のエピソード記録

【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】

日に日に活発になっている子ども達は、体を動かすことを楽しんでいるが、歩行が安定しない子や保育者の予想もしてない動きを見せるなど、危険につながる姿も多くみられる。

危ないから止めてしまうのではなく、その姿を遊びに繋げることはできないか、悩みながら環境を作っているが、いまだに納得いくものが提供できていないようにも思う。この日も課題を残す保育だったが、保育の見直しも兼ねて取り上げた。

【エピソード】12月14日「止めたい動きを遊びにかえて」

高い所への興味が強くなり、テーブルの上り下りを楽しむ子の姿が目立っていた。（中略）思わず「おりて」「危ないよ」と慌てて声をかける担任だが、子ども達はお構いなしに上ったり上を歩いたり…。誰かがすれば他の子も真似をして上ってしまい、そのたびに声が大きくなる大人の声も気になってきた時だった。

「おりて！危ないって！ここはご飯食べる所。もー！おーりーる！」
（きっと自分もこんなふうと言っている時あるよね）

離れて様子を見てると、妙に落ち着いて担任と子どもの関係を見たり、自分に置きかえてみることもできる。声をかけても抱きおろしても繰り返す子ども達。（きっと高い所に登りたいんだよね）上手いかかわからないが、よじ登れる場所を作ってみることにした。（子どもの様子に合わせての環境づくり！大事！）

ダンボール箱やハイハイ板で遊び場を作っていると、I先生が「何作るんですか？手伝います！」と声をかけてくれた。一緒に色々考えながら作っていると、子ども達が気になって近寄ってきて、すでによじ登ろうとする。期待している子ども達の思いに応えられないか少し不安も感じながら準備する。

そして、即席ではあるが、完成！「ここなら好きなだけ登っていいよ」数人が興味を示して必死によじ登ろうとするが、少し高すぎたらしく上まで上がれなかった。子ども達は楽しくなかったのだろう。その場を離れてしまった。反省と課題が残った。

それからは意識して、高さのある場所を作っている。高さを変えたり、マットでデコボコに作るなど試行錯誤しながら…。

そして、あんなに何度もテーブルに上っていた子ども達が気づけば上らなくなっている。でも、今度はハイハイの小さな子達が必死にテーブルに上がり、満面の笑みでこちらを眺めている。

【考察】子ども達の動きを見て、何を求めているのかに気づいていき、その時に必要な環境を作ること

このエピソード記録にも、第4回同のように「自分の心の中」が括弧に入れて記述されていた。

エピソード記録をもとにした話し合いの中で「納得いくものが提供できていない」ことについて筆者が質問すると、A先生は寒い時も室内で高い所を作って体を動かして遊べるようにしたいが、隣には寝ている子どももいるため、環境作りが難しいと語っていた。第2回、第3回のエピソード記録で取り上げていたI先生も、自分なりに跳び箱やカラーマット等を使って一生懸命環境を作ってくれるが、なかなかうまくいかないと語っていた。

筆者は他の保育者にも自分の経験をふまえた考えを語ってもらった。すると、前年度の0歳児クラス担任保育者からは、年によって子どもの月齢も違うため、保育者同士で話しながら遊びを作っていく必要があり、楽しいが大変だったと思い出したと話があった。他の保育者からも、子どもにとってテーブルは登るのにちょうどいい高さになっている、加減が難しい等の意見が出た。

A先生は、子どもの人数が多い中で大胆な遊びをしようと、他の子どもも殺到して止めることになるため、各々の場で遊びを楽しむようにしようと話しているが、自分が絵本を読んでいると、他の保育者も子どもと一緒に集まって来ることもあり、いつもこのことが課題になっていると語っていた。その話を聞いて、筆者は数年前の園内研修資料を活用することを提案した。窓枠に登る等の子どもの姿が見られた時に、子どものやりたい気持ちに応えるためにどのように室内環境を見直していき、そのことで子どもたちの姿がどのように変化したのかをまとめた資料があり、この資料を活用すれば、「前にこのようなことがあった」という形でA先生が大切にしたいことを伝えやすくなると考えたためである。

園内研修後のポートフォリオ記録に、A先生は「私と同じ経験をしたり、悩んで様々な実践を残してきた先生たちの保育を参考にして、自分の保育にいかしてみよう」と記述していた。

第5回園内研修で取り上げたエピソード記録は、どれもわかりやすく、主担任保育者の考えや悩みも伝わる記録であったため、園長の提案で、このエピソード記録をもとに話し合うクラス会議を実施することになった。

【第6回園内研修（3月）】

第6回では、クラス会議でエピソード記録をもとにどのようなことを他の担任保育者に伝えたいかを報告し合った。A先生は「もう一度先生達と保育を振り返り、子どもたちの思いや考えを共有していきたい」と語っていた。「資料があるととても話しやすい」ため、第5回で筆者が提案した資料も活用したいと語っていた。このクラス会議は園長の提案で、そのための時間も確保してあるため、「日にちも決まってるし」「自分のやりたいこと

もきつと先生たち持つてるはず。すごくいいチャンス」とも語っていた。

第6回では、一年間の園内研修の中での自分の変化についても報告し合った。

A先生は「思わず自分のペースで声をかけたり、子どもの行動を待たずに、先に手を出してしまう時があったと思うが、子どもの主体性を意識するようになった」、「子どもたちの思いを大事にし、子どもにとって必要な環境を作ったり、気になった子どもの姿にスポットをあてて、何をこの子は考えているのかな、何がしたいと思ってるかなど、子どもの気持ちを考えるようになった」と語っていた。また、そのように変化したのは、「子どもたちがしっかり自分を出して自分のやりたいことを楽しんでいる姿」があるから、自分も「思いや課題をエピソードに残し、自分自身の保育を振り返るようになってきた」からだと言っていた。

【エピソード記録をもとにしたクラス会議（3月）】

A先生のポートフォリオ記録をもとに、0歳児クラスのクラス会議の内容をまとめる。

- ・自分のエピソード記録をもとに保育を振り返り、先生たちに自分の思いを伝え、先生たちの思いも聞いてみたい、この話し合いをきっかけに意見交換できる保育者同士の関係ができるとうと考えた。
- ・話し合いとなると自分の思いを口に出すのが苦手な先生もいるので、エピソード記録に目を通してもらい、以下のことを書いて読んでもらうようにした。
 - ①エピソードを読んでみての感想
 - ②子ども達はなぜテーブルの上へ上がったと思う？
 - ③この時先生だったらどうした？
 - ④日頃の保育の中で難しさで何か感じることはある？
 - ⑤自分の保育を振り返ってみて、何か課題はある？
- ・みんな自分の思いをしっかりと話してくれて、とても意味のある話し合いになった。私が伝えたいことも話すことができた。今後もこのような話し合いの場を作っていきたい。
- ・以前の園内研修の資料を使用したのもよかった。
- ・何度も繰り返しテーブルに上る子どもたち。遊びに繋がって見たもの子どもたちの満足いく遊びにはならなかった。今の私たちに必要なことは何だろう。子どもたちの思いをしっかりと受け止めて返していくこと。
- ・今の子どもたちが求めていることは何か。子どもたちにとって必要な環境づくり。そのためにも保育者同士意見を伝えあう事が大事だと思う。

Ⅲ-2 園内研修の実際（2年目）

【第1回園内研修（5月）】

第1回では、保育記録の課題と改善点について話し合

った。日誌を書く大変さを語る保育者が多い中で、A先生は「日誌がないと困る」と語っていた。筆者は、日誌を書かない担任保育者にも、簡単でよいのでエピソードを書いたり報告したりしてもらい、日誌に取り入れてはどうかと提案した。

A先生はポートフォリオ記録に「0歳児クラスは担任が多いため、保育計画を口頭で伝えることが難しい時もある」「日誌を共有していくことを大事にしていかなければいけない」「主担任だけでなく、他の先生が書いた記録も入れていきたい」と記述していた。

【第2回園内研修（7月）】

第2回では、第1回での話し合いをもとに試みたことを報告し合ったが、他の担任保育者のエピソード記録を日誌に取り入れられたクラスはなかった。

【第3回園内研修（9月）】

第3回では、A先生のエピソード記録も取り上げた。0歳児クラスの中でいつも一緒に遊んでいたが、人数が増えてグループ分けをしたため、別々のグループになってしまった子どもたちを取り上げていた（表8）。

このエピソード記録には、言葉が出てないが（表8下線部）、自分の思いを伝えようとする姿や、A先生が子どもたちの姿から読み取ったこと（表8下線部）、危ないことを心配しながらも、その思いを尊重して関わったこと（表8下線部）が記述されていた。

話し合いの中で、二人は普段どんなことをしているを質問されると、A先生はいつも一緒にいてe男の方がf男を求める姿があると具体的場面をあげて話していた。今の二人の接点について質問されると、夕方は2グループ一緒に過ごすこと、担任保育者は2グループ一緒に遊ぶ機会を作るようにしているため、他にも一緒に過ごすことがあると話していた。e男は歩き始めたので、また変化があるのではないかと語っていた。

A先生が考察にこの二人の姿について見ていきたいと記述していたため、第4回でその後の姿について報告してもらうことになった。

【第4回園内研修（11月）】

A先生から、第3回で取り上げたe男のその後の姿について、次のように報告があった。

- ・ 歩けるようになったe男は、トイレでf男を見かけると自分から抱きつきに行く姿が見られ、やはりe男の方がf男を求めているように感じている。
- ・ 今のグループではe男が一番大きいため、自分より小さい子どもの頬を触ってあやしているように見える姿が増え、この空間も楽しめているように見える。
- ・ f男とグループが分かれてかわいそうという気持ちがあったが、大きくなったe男の姿を見て、今はそのようには感じなくなっている。

表8 第3回園内研修でのA先生のエピソード記録

<p>【エピソードを取り上げた理由・みんなで検討したいこと】</p> <p><u>まだ言葉も出ない幼い子も、自分の思いを出そうとしたり、やりたいことがあったりと、日々成長を感じる。一人遊びに夢中になっていた子達が少しずつ同じ空間にいる友達のことを気にし始め、自分から友達に関わろうとしたり、同じ遊びを楽しむようになってきている。自分が見た場面でこんなに幼い子が友達のことを気にしている姿に驚き、嬉しく思ったため、取り上げた。</u></p>
<p>【エピソード】8月21日「仲良しの二人」</p> <p>e男がポットンボールの箱の上に立っていたからびっくり！箱の上に立ち、必死に窓につかまり外を眺めていた。（中略）すぐにおろそうとしたが、「<u>アアアア</u>と言いつつ一生懸命外を指さし何かを訴えようとしている姿を見て、今はおろすのをやめようと思った。</p> <p>危なっかしい姿にヒヤヒヤしながらも声をかけた。「<u>何か見えた？プーブーあったねえ</u>」窓から見える駐車場には、何台か車が見えていた。「でもねえ、ここトーンしたらイタイタイなるかも。おんりしょっか」e男は私の顔を見て話は聞いている様子だが、また窓を覗き込んで嬉しそうに声を出していた。</p> <p>私とe男のやりとりに気づいたのか、f男がやってきて、e男の姿を見て箱に登ろうとした。危ない危ない！二人は上がれないよ」さすがに止めようとするが、お構いなしで必死に登ろうとする。でも、f男には少し難しいのかうまく登れない。e男は少し迷惑そうな顔をして箱の上に踏ん張り、f男の様子を見ていた。</p> <p>最初に上っていたe男におりてもらおうと思っていたら、e男が「<u>どうぞ</u>」と言ってるかのように、自分からおり始めた。「<u>よかったね、f君。私は上ってもよいサインを送るが、f男は上るのをやめ、ハイハイでその場を離れていくe男の後を追っていった。</u></p> <p><u>f男はe男と一緒に同じ場所に上りたかった</u> ポットンボールの箱につかまり、笑顔で立つe男の写真(後日撮影)</p>
<p>【考察】気づいたら、いつもくっついて遊んでいる二人。でも、9月からグループが分かれ、保育室が別々になってしまう。これからどのように友達を意識して人間関係が変わっていくのか、少しかわいそうな気もするが、楽しみにしたいと思う。</p>

他のクラスのエピソード記録をもとにした話し合いでは、一生懸命子どもと遊んでいる若い保育者に、「子どもが本当にやりたいことか」という視点をもってもらうにはどのように伝えるとよいかという悩みが語られた。3歳未満児クラスは担任保育者数が多いため、全員で集まって話し合う時間の確保の難しさも語られた。

このような状況もふまえ、園長から、前年度のように時間を確保し、園内研修で学んだこともいかしながら、エピソード記録をもとに話し合うクラス会議を実施すること、今回は記録を書く機会が少ない他の担任保育者にエピソード記録を書いてもらうことが提案された。

A先生はポートフォリオ記録に「自分たちのクラスもグループ全体での話し合いができていない。話し合う時間を作りたい」と記述していた。

【第5回園内研修（1月）】

第5回では、エピソード記録をもとに話し合ったクラス会議について報告し合った。A先生の報告をもとに、

0歳児クラスのクラス会議の内容をまとめる。

- エピソード記録を書いた担任保育者は、主体的な遊びではなく生活の場面を取り上げたいと考え、自己表現の仕方が激しく、落ち着いて食事をすることも難しいg子の給食場面についてエピソードにまとめていた。g子の気持ちを受け止めながら向き合い、保育をしていることを知ってほしいという理由からであった。
 - エピソードには、すきではない白米を食べずに泣くg子に「先生も食べたいな。もらってもいい?」と言って茶碗の端のご飯をつまんで食べて見せると、ハッと自分からご飯をすくって食べ、おいしかったようで、どんどん食べ始めた場面を取り上げていた。g子と自分とのやりとりも、具体的に記述していた。
 - エピソード記録をもとに次のような話し合いをした。
 - ・他の保育者からは、「私だったらどうにかして泣かせまいと色々声をかけるが、先生は泣いて訴える思いを受け止めていて、こんなやり方があるのだと学んだ」、「言葉だけではなく、目で見える形で伝えたのがよかったのではないか」等の意見が出た。
 - ・0歳児の子どもにとっての「主体的な」とはどういうことかという話でも盛り上がった。子どもが喋らないから、つい先走って声をかけたり手を出したりしがちだが、子どもが何をしようとしているかを見ていくことも学んでいかないといけないという話をした。
 - ・なかなか顔を合わせて話をする機会がなく、全員が意見を言えたとてもよい会議になった。
- 【第6回園内研修（3月）】**
- 第6回では、エピソードを書いた担任保育者にクラス会議を体験して考えたことを事前に聞き取り、報告する時間を設けた。A先生は次のように報告した。
- ・自分とは違う視点から意見をもらうのは緊張するが、「私だったらこんなふうに言っていたかも」「先生のここがよかったよ」と言ってもらうことはなかなかないし、とてもよい場だった。
 - ・自分の思いを人に伝えるのはとても苦手だが、こんな場があると自分の思いも伝えられ、人の思いも聞ける。クラス会議を体験して主担任保育者が考えたことも報告し合った。A先生は次のように語っていた。
 - ・自分を含め、みんな手探りで保育をしていると思う。でも、保育でのエピソードを記録に残しておくことで、改めて自分の保育が見えてくると思う。
 - ・会議で意見交換をすることで、励まし合ったり、思いを共有できた。皆で集まって話し合いの場を作っていくことをこれから意識していきたい。
- この日は2年間の園内研修の最終回であったため、これまでの園内研修を通しての自分の変化とその理由についても報告し合った。A先生は次のように語っていた。

- ・エピソード記録を書くのに、すごく悩んだ。言葉もないし、子ども同士で関わりもないため。
- ・でも、書く事だけでなく、研修を重ねて他の先生方の思いを聞くことで、子どもの主体性について意識できるようになった。待ったり、子ども同士が関わる姿を見守るようになってきた。
- ・それぞれのよさがある先生たちと、しっかり思いを伝え合い、今年一年すごく楽しい保育ができた。子どもがなぐり描きをしていて、若い先生が「こども描けるよ」と言ったり、紙をひっくり返したりした時にも、「この動きから、大きくなってきたら丸が描けるよ」「段々手首でこんな小さい物も描けるようになってくると思うよ」「そこを見たいよね」「でも、それをひっくり返したりしたら、全然違う物になるじゃない?」というように話し合いができて、思いを伝えられる。

Ⅲ—3 園内研修終了後に実施したインタビュー

Ⅲ—3—1 2年間の園内研修を振り返って

質問項目1「これまでの園内研修の進め方」について質問すると、A先生は以下のことを語っていた。

【園内研修記録をもとにした自分の保育の見直し】

- ・園内研修記録を毎回見返した。文章にされると、自分の特徴や喋り方の癖もわかり、自分の保育がもう1回見返せるのもよかった。

【0歳児のエピソード記録を書くことの難しさ】

- ・エピソードを書くために子どもの姿を見ようとするが、0歳児の最初は言葉も特にないので、書きにくかった。自分の保育を見返すのではなく、他の先生との子どものやりとりを見て書くしかできなかった。
- ・他の先生の保育を見て“自分は”とあまり考える方ではなかったが、だんだん“自分の保育ってこれでよかったかな”と思うようになった。いろんな人の話、保育を見て聞いて、“自分はどうかだろうか”と自分の保育をもう1回見返すようになった。
- ・子どもたちが大きくなってくると、やはり姿が変わってきて、だんだん書けるようになった。

【「子どもの主体性」について考えるようになった】

- ・子どもの主体性についてあまり考えていなかった。小さいクラスは反応がないので、“次何しよう”と、自分が主になって保育をすることの方が多かったと思う。
- ・2年間園内研修をして、子どもの動きを待つ、子どもの姿を見ることは、本当に意識できるようになった。

【リズム遊びについての考え方と保育の変化】

- ・この園では0歳児からリズム遊びを取り入れているが、今までは“リズムをしない”と必死になり、「さあリズムやるよ」と言って、私たちがやるのを見せていた。

- ・この研修があつて“そうだよね、ちょっと違うかも、私たち”と思い、あえてやらなかった。本当に自分の保育が変わり、リズムの進め方が変わってきた。
- ・子どもがずりばいハイハイを始めた時に、「おうまさんだね」って言って「おうま」を歌い、後について「おうま」をする。すると、私たちの動きを見て、他の子も一緒についてくる。子どもが何かの仕草をした時、バイバイとか手が上がった時に、今度は「うさぎ」の歌を歌う。
- ・このように観察する力もついてきたと思う。

【主体性を大切にする保育についてアドバイスすること】

- ・だから逆に、若い先生たちがどんどん喋ったり、先を先を行こうとしているのが、目につく。
- ・「ちょっと待ってこうか」「子どもが今何しようとしているのか、ちょっと見てみよう、観察してみるのもいいかもよ」等、今までは言えなかったことが言えたと思う。
- ・「園内研修の時に、こういうことがあったよ」「他のクラスでもこういうことがあったんだって」等、保育の中で言える。この研修をきっかけにアドバイスができたのは、すごくありがたかった。

Ⅲ—3—2 今年度の4月からの子どもたちと保育

A先生はインタビュー実施年度も0歳児クラス主担任保育者であった。質問項目2「今年度の担任クラスの子どもの人数は8名、担任保育者は4名で充実しているが、担任保育者4名のうち2名は保育経験が1年目、2年目であり、生活の中で伝えていくことも多いと語っていた。

【子どもの主体性を感じた場面】

子どもの主体性について考え方が変わり、そのことで保育も変わったことは質問項目1について語ってもらう中でも触れられていたが、改めて「今年度の保育の中で子どもの主体性を感じた場面」があるか質問した。

すると、登園時に親と離れて泣いてしまい、なかなか気持ちの切りかえができないのが赤ちゃんなのだが、以前の自分なら、とにかくどうかして泣く止まそうとしていたと思うと語った。そして、今はそうではなくて、自分で幼いなりに切りかわる瞬間を待つようになったと語り、最近あった「子どもの主体性を感じた場面」について語った(表9)。

【よかったと思う保育を他の先生に伝えること】

最後に、A先生は次のようにも語っていた。

- ・この保育(表9)を文字化して、他の先生に伝えることができたなら、みんなでも共有し合えるかもしれないが、日誌に残すしかなく、それはそれで終わってしまった。
- ・きっとみんなもあるんじゃないかと思う。
- ・なかなか私も言いにくいけど、こういうエピソードをもとに話ができたら、伝えやすいと思った。

表9 A先生が語った「子どもの主体性を感じた場面」

gちゃん(1歳)が泣いていて、何をしても泣き止まなかったので、「おんりにしていいよ」と言って、抱っこからおろした。
そばにいたhちゃん(9ヶ月)が積木で遊んでいたの、私が積木を二つ重ねた。すると、hちゃんが私の真似をして三つ目を置き、手を叩いた。 “すごい。重ねるということがこの子にはわかるんだな” と思い、「わー、hちゃんすごいね」と言った。それを倒したので、「じゃあ、一つ、二つ」と言って積むと、また同じように3回やって手を叩くので、“やっぱりこの子わかるんだな” と思った。
gちゃんは隣で泣いていたが、何となく“見てるな” と思っていた。すると、泣いていたgちゃんが、隣にあった積み木を取り、それを持って泣いていた。それで、「gちゃんもできるかな」と言って、同じように二つ積木を積んであげた。私が「一つ二つ、三つ四つ」と「きくのはな」を歌って、三つ重ねた時に、gちゃんがバンッとほねのけた。 それで、「あらー。崩れちゃったねー」「もう1回ね」って言って積み木を積むと、また同じようにパーンとはたき、それを見て手を叩いた。“この子は崩すことに楽しさを感じて手を叩いてるんだ” と思い、「ああ本当だ。倒れた。上手だね」「もう1回行くよ」と言って、その繰り返し。「わー上手、よかったねー」とやっていたら、いつの間にか泣き止んでいた。
gちゃんはhちゃんと私の遊びを見て、こうしたんじゃないかなと思った。遊びがここで広がり、自分の力で泣き止んだのが、すごくうれしかった。幼いなりに何か気持ちが切りかわる場面、環境を作ってあげるの、すごく大事だと思った。

Ⅳ まとめと考察

本研究は、0歳児クラス主担任保育者が園内研修のどのような内容から、どのように子どもの主体性の捉え方や保育が変わったと捉えるようになったのかを明らかにすることを目的とした。

0歳児クラス主担任保育者A先生は、この園内研修が始まった当初、テーマとなっている「子どもの主体的な遊び」についてエピソード記録を書くために子どもの姿を見ても、「言葉もないし、自分からの発信も少ない」と、この時期の0歳児の姿をもとにどのように書くのか悩んでいた。また、第1回のポートフォリオ記録には、子どもの姿から子ども達の思いを考えると面白いと思うが、「今後の保育にいかせるかはわからない」と記述していた。そのため、0歳児クラスの他の担任保育者と子どもとの関わりについて見たり聞いたりしたことをエピソード記録に取り上げることもあった。

しかし、園内研修の中で他の保育者のエピソード記録をもとに子どもの主体的な遊びについて考え合ったこと、筆者が自分のことをエピソード記録として取り上げることを勧めたり、子どもが自分から何かを始めようとする姿に着目することが大切であると伝えたこと、0歳児クラスの他の担任保育者の保育を見ることで、「自分だったらどうだろうか」と振り返ることを重ねる中で、子どもの

主体性についてより意識して考えるようになったと捉えていた。そして、子どもの姿をよく見る中で「子どもにとってどうか」「子どもが今何を求めているのか」という視点から保育について考えるようになり、実際に保育も変わったと捉えていた。

また、このような自分の変化によって、他の保育者の子どもの捉え方や保育も気になるようになり、子どもの主体性を支える保育についてのアドバイスもできるようになったと捉えていた。

このような0歳児クラス主担任保育者が捉えた変化から、エピソード記録をもとに同じ参加者で園内研修に取り組むこと、その成果を各クラスでの話し合いにもいかし、自分が園内研修で学んだことをふまえて若手保育者と話し合う体験をすることは、保育経験が豊かな保育者にとっても自分の子どもの捉え方や保育について再考する機会となることがわかる。A先生は自分が悩んだ体験について語る中で「言葉もない」0歳児とよく口にしてはいたが、このように子どもが「何を求めているのか」に気づき、「子どもにとってどうか」という視点から絶えず保育を振り返ることは、まだ言葉で伝えることができない0歳児の保育だからこそ必要不可欠な営みである。

本研究の成果もふまえ、今後も乳幼児期の子どもの姿に基づく保育の過程について考え、言語化して他の保育者とも共有していく園内研修のあり方について検討していきたい。

注

1) この省察サイクルの第1局面は「行為 (Action)」であり、第2局面で「行為を振り返る (Looking back on the Action)」。その中で第3局面「本質な諸相への気づき (Awareness of essential aspects)」に至れば、第4局面「行為の選択肢の拡大 (Creating alternative methods of action)」へとつながり、第5局面「さらなる試み (Trial)」が行われる。このモデルでは、「本質的な諸相への気づき」に至るために、「行為を振り返る」際に具体化を促す8つの「問い」を用いる。この問いによって、自分の保育について「子どもにとってどうか」という視点から振り返ることができる。

表1は、8つの「問い」の5がSOAPのS (子どもの姿)、問いの6・7・8がSOAPのO (読み取り) に対応することを示し、そこからA (保育者としての願い)、P (そのための環境構成・援助) と考えていくことを理解できるようにまとめた。表1の作成にあたっては、村井 他 (2020) が保育者の協同的省察に活用したワークシートも参考にした。

2) 詳細については、中島 (2024, 2025) を参照されたい。

引用文献

- 厚生労働省編 (2018) 保育所保育指針解説。フレーベル館, 111.
- 保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会 (2020) 議論のまとめー「中間的な論点の整理」における総論的事項に関する考察を中心にー。
- 河邊貴子 (2019 a) 「驚き」や「喜び」を記録し、子どもの育ちを読み取って、次の援助につなげる。ベネッセ次世代育成研究所これからの幼児教育, 2019年春号, 2-5.
- 河邊貴子 (2019 b) 保育の計画につながる保育記録とはーSOAP記録が促す「理解から援助へ」の過程ー。子ども学, 7, 141 - 160.
- Korthagen, F. A. J., Koster, B., Lagerwerf, B. & Wubbels, T. (2001) *Linking practice and theory: The Pedagogy of Realistic Teacher Education*. Routledge. (武田信子監訳 (2010) 教師教育学: 理論と実践をつなぐリアリスティックアプローチ. 学文社.)
- 村井尚子・坂田哲人・今井豊彦・落合陽子・松野敬 (2020) 保育実践への協同的な省察の効果への実証的研究 (1). 日本保育学会第73回大会発表論文集, 621-622.
- 中島寿子 (2024) 子どもの姿に基づく保育を共有するための園内研修. 山口大学教育学部研究論叢, 73, 265-274.
- 中島寿子 (2025) 子どもの姿に基づく保育を共有するための園内研修. 山口大学教育学部研究論叢, 74, 127-136.
- 幼児教育の実践の質向上に関する検討会 (2020) 幼児教育の質の向上について (中間報告) .

謝辞

本研究にご協力いただきました保育園の先生方に心よりお礼申し上げます。

付記

本研究は、科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金) 基盤研究 (C) (課題番号 22K02407) の助成を受けている。